

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600401
法人名	有限会社 英
事業所名	グループホームなごみの里
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原2185-1 (電話) 0947-72-3939

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年11月21日	評価確定日	平成20年1月25日

【情報提供票より】 (平成19年10月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 8 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造耐火 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	(有)(300,000 円) 無	有りの場合償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年10月24日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	58 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日高医院・うえだ歯科・川崎町立病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は小高い丘に位置し、敷地の外周を栗の木と桧が覆い、防風林の役割を果たしている。敷地内に菜園があり、日当たりもよく閑静な場所に立地している。この事業所の特筆すべきは、全職員で一人ひとりの利用者を支援しているところである。個別の介護計画書には、全職員が介護計画に沿った介護がその日1日出来たかどうかの自己評価のチェック欄があり、3ヶ月にわたり毎日チェックされ、次の介護計画作成時のアセスメントに活かされている。運営者、管理者、職員一人ひとりの利用者に対する対応が、穏やかで誠実である。また、介護する側もされる側も、両者が家族的な関係を築いていると感じさせる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、全職員で会議で話し合い、改善計画表を作成して、ホーム内に閉じこもらない取り組みや危険物の保管等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員の意見を聴取し、集約して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催している。利用者やそのサービスについての報告、外部評価の報告等を行い、委員からの意見等を通して、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置している。ミーティングで家族への働きかけについて話し合い、折に触れて外部機関も含めた苦情相談窓口について説明している。運営推進会議への参加を全利用者の家族に毎回促している。その中で出た家族からの意見等を運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	中学校の体験学習の受入れや事業所主催の敬老会には地域の日本舞踊、コーラスのボランティアを招いている。地域の祭りの際は敷地を開放し、杖楽、獅子舞を地元の人に舞ってもらう等、地元の人々と交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげ、利用者のケアに努めているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の理念があり、毎朝朝礼時に唱和している。また、月1回のミーティングでは、理念を具体化した介護についての話し合いを行っている。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学校の体験学習の受入れや事業所主催の敬老会には地域の日本舞踊、コーラスのボランティアを招いている。地域の祭りの際は敷地を開放し、杖楽、獅子舞を地元の人に舞ってもらう等、地元の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員の意見を聴取し、集約して取り組んでいる。前回評価での改善課題については、全職員で会議で話し合い、改善計画表を作成して、ホーム内に閉じこもらない取り組みや危険物の保管等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催している。利用者やそのサービスについての報告、外部評価の報告等を行い、委員からの意見等を通して、サービスの向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>成年後見制度への取り組み等の行政への相談事や事業所の実情を話す等して、行き来している。また、事業所のパンフレットを置いてもらっている。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度に関するパンフレットや教材を準備している。</p>	○	<p>制度に関する研修の機会を持ち、利用者や家族への情報提供ができるよう、全職員の制度への理解を深めてほしい。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月1回、家族来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態について報告している。緊急時には、電話で状態報告を行っている。金銭管理については、出納帳を作成し、領収書の原本を渡して署名してもらっている。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。ミーティングで家族への働きかけについて話し合い、折に触れて外部機関も含めた苦情相談窓口について説明している。運営推進会議への参加を全利用者の家族に毎回促している。その中で出た家族からの意見等を運営に反映させている。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、職員交流の機会をつくる等し、職員が働きやすい職場環境をつくるよう努めている。離職の場合には、引継ぎを設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。全職員が正規職員で、雇用の安定を保障することによって意欲を引き出すようにしている。職員の介護福祉士等の資格取得について、勤務時間を融通して対応する等し、能力を発揮して生き生きと勤務できるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、月1回のミーティングで人権に関する話しをしている。</p>	○	<p>内部または外部研修への参加の機会を設けて人権教育を実施し、研修資料やパンフレット、研修記録等を残してほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者、管理者は日頃から学ぶことへの理解があり、外部研修へは、一部職員が参加している。</p>	○	<p>年間研修計画を立てて外部研修へ参加する機会を確保し、全職員に対する研修に取り組んでほしい。また、研修資料や報告書等の記録を残してほしい。</p>
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、近隣のグループホーム事業所と連携している。</p>	○	<p>管理者だけでなく、職員も含めた同業者と交流する機会を持ち、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしてほしい。</p>
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に体験入所と見学及び自宅訪問、病院訪問を行っている。やむを得ず即利用の場合には、利用者が落ち着くまで家族に来院してもらい等、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、洗濯、掃除の手伝いや編物、裁縫、ヘアメイクの助言等を通して、利用者から生活の知恵や文化を教えてもらう場面がある。利用者が職員の様子や表情等に留意して、親身に心配してくれる等、支えあう関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、思いや希望、意向等の把握に努めている。また、家族や関係者から情報収集したり、ミーティング等で気付いた事を職員間で意見交換して、本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族来訪時に意見を聴取し、思いや意向を把握し、ミーティング時に全職員で意見交換をして介護計画を作成している。介護計画について、家族の了承の捺印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画を見直している。見直しについてはミーティングで職員間で検討している。状況変化時は随時見直し、家族に連絡している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の入院時は見舞いに行き、本人・家族、かかりつけ医、事業所と三者会議を重ね、早期退院に向けた取り組みをしている。また、かかりつけの医療機関へ送迎支援を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりにかかりつけ医がおり、希望の医療機関での受診を支援している。受診には家族の状況に応じて通院や送迎等、柔軟に対応している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針があり、入居時に説明している。利用者の状況に応じて、折りに触れ、利用者・家族の意向を確認し、かかりつけ医、職員で話し合っており、全員で方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩であるという意識を持ち、利用者に対する礼儀や、さりげない介護を心がけている。ミーティング時にプライバシーに関して学習して周知し、意識化を図っている。また管理者は、日常生活の中で、言葉遣い等、その都度職員に注意を促している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、その日の利用者の希望、体調に配慮しながら一人ひとり支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。事故防止の観点から、利用者と一緒に食事は摂らず、見守りと介助をしているが、食事を楽しむ雰囲気作りに配慮している。	○	利用者と職員が共に暮らす視点から、介助の配慮をしながら同じ物を味わい、食卓を共にする工夫をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴できるよう支援している。入浴拒否する場合は、職員の言葉かけ等の工夫をし、入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力を活かし、掃除、調理、洗濯物たたみ、畑仕事等の役割や、編物、ぬり絵等の楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の希望や体調に配慮して、毎日の日光浴や散歩をしている。また、希望にそって買い物や弁当持参でのピクニック、季節毎に花を觀賞する等、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。玄関にはセンサーがついている。職員は利用者の外出傾向を把握し、玄関のセンサーに頼らず、職員間で連携を図って見守りを行っている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施し、職員は避難経路等を熟知している。災害に備えて備品を準備している。	○	今後はいざという時のために、事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常食を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分及び食事摂取量について、全利用者の記録がある。献立は、職員が利用者の嗜好を考慮して作成している。また、一人ひとりの状態等を応じて、きざみ食等工夫している。	○	最低年1回は、栄養士等による専門的アドバイスやチェックを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に大きなソファを設置し、壁には各種行事の写真を貼り、家庭的雰囲気に配慮している。職員の声の大きさは適切で、光はカーテンで調整し、不快に感じることがないように配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に洗面所を設置している。使い慣れた馴染みの整理筆筒、調度品、家族写真、仏壇、ぬいぐるみ、編物等を持ち込み、その人らしい落ち着いた居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。